

# 高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年7月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

## 全国情報

第26週(6月28日～)から第30週(～8月1日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における7月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると35.70で6月の31.86と比べて増加した。増加の原因は、夏季に多いはずの手足口病やヘルパンギーナではなく、本来は秋～冬に多いRSウイルス感染症の全国的な大流行である。7月で比較すると、2015年79.16、2016年51.04、2017年74.43、2018年48.67、2019年87.48と推移したが、新型コロナ後の2020年は16.62と激減し、2021年は増加したとはいえ、コロナ前と比べるとまだまだ少ない。新型コロナ対策の活動自粛と衛生管理により、日常的感染症は依然抑制された状態が続いている。

2020年度は、全くRSウイルス感染症の流行がみられなかったためか、今年は季節外れの爆発的な流行となっている。インフルエンザにおいても昨年は1シーズン流行期の消失という異変が起きており、今季は、RSウイルスのような爆発的な流行が生じる可能性が否定できない。今季こそ、昨年以上にインフルエンザワクチンを推進する啓発が必要であろう。

1位がRSウイルス感染症で4週間換算値が19.06(6月2位12.10)と増加した。2位は感染性胃腸炎で10.86(同1位13.21)、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.11(同3位2.41)、4位は突発性発疹で1.57(同4位1.75)、5位は咽頭結膜熱で1.11(同5位1.61)といずれも減少した。6位はヘルパンギーナで0.99(同7位0.46)と増加した。

### 〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

世界の患者数は図1左に示すように、8月4日には2億人にせまり、死亡者は424万人を超えた。患者数を国別で比較すると、1位米国(3,523万人、人口当たり感染率10.71%)、2位インド(3,172万人、感染率2.32%)、3位ブラジル(1,998万人、感染率9.47%)、4位ロシア(625万人、感染率9.60%)、5位フランス(624万人、感染率4.28%)、6位英国(595万人、感染率7.13%)、7位トルコ(579万人、感染率8.58%)、8位アルゼンチン(496万人、感染率11.08%)、9位コロンビア(480万人、感染率7.94%)、10位スペイン(452万人、感染率8.99%)である。

日本の患者数を図1右に示す。12-1月に第3波で急増した(第3波)が、2月-3月と加速が緩んだ。しかし、4月以降は再び急峻な増加となり(第4波)、アルファ株(英国型変異株)が急速に拡大し主たる流行株に置き換わった。追いかけるように高知県もGW後に感染拡大し第4波を迎えた。7月に入って急増しつつ東京五輪に突入し、医療逼迫が叫ばれている。8月4日時点の国内の感染者は956,407人、死亡者は15,219となった。6月になってデルタ株(インド型)が国内でも増加し、やがてアルファ株に置き換わっていく勢いである。やはりオリンピック開催が患者急増と関連しているようである。

高齢者ほど死亡率が高いのがCOVID-19の特徴である。ワクチンは65歳以上の高齢者を優先して接種が進められている。図2に示すように、各年齢層の死亡率は概ね、80歳台以上14%、70歳台5%、60歳台1.5%である。この数字がワクチン効果により修飾されてくることが予想される。

図3Aに年齢層別患者比率を示す。8月4日時点で累積感染者が人口に占める割合を図3Bに示す(総務省統計局が作成した2021年1月1日現在の人口推計<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202106.pdf>を用いて算出した)。感染者の割合は、20歳台が最大で1.78%(100人あたり1.78人が感染)、次いで30歳台の1.07%、40歳台0.78%、50歳台の0.74%と続く。注目されるのは、80歳台以上が0.51%で、60歳台の0.47%、70歳台の0.37%よりも高い点である。患者高齢者施設でクラスター(感染者集団)発生が相次いでいることが、80歳台の感染率を押し上げていると推測される。ワクチンによって高齢者の感染および死亡に歯止めがかかることが期待される。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	26週	27週	28週	29週	30週	計
1	RS ウイルス感染症		4.13	5.04	5.99	4.64	4.03	23.83
2	感染性胃腸炎		3.14	3.04	2.90	2.07	2.42	13.57
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.58	0.61	0.58	0.43	0.44	2.64
4	突発性発疹		0.42	0.42	0.41	0.34	0.37	1.96
5	咽頭結膜熱		0.36	0.32	0.30	0.20	0.21	1.39
6	ヘルパンギーナ		0.16	0.21	0.30	0.29	0.28	1.24

## 県内情報

### 1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は4週間換算値69.12で6月の51.14と比べて増加し、全国よりも多かった。7月と比較すると、2015年43.49、2016年33.51、2017年73.37、2018年30.59、2019年68.15と推移したが、新型コロナ後の2020年は14.41と激減していた。2021年の7月は新型コロナ前（平年並み）の数に戻った。増加の原因は季節外れのRSウイルス感染症である。1か月の報告数としては、過去10年で冬季を含めても最多の報告数である1,543名を記録した。過去10年の1年間の患者数を上回るような数が、1か月で報告されたことになる。この流行は全国的であるが、都道府県別にみると高知県は多い方から3番目だった。

1位はRSウイルス感染症で44.09（同2位14.11）と著しく増加し、全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で9.80（同1位24.36）と減少し全国よりも少なかった。3位はヘルパンギーナで7.42（同3位7.36）と横ばいで、全国を上回っていた。4位は手足口病で4.78（同8位0.68）と増加し、全国よりも多かった。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.58（同4位1.96）と減少し、全国よりも少なかった。6位は突発性発疹で1.46（同5位1.78）と減少し、全国と同等だった。

### <新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。昨年12月に報告が急増し（511人/月）、1月184人、2月37人、3月33人と減少したが、その後に第4波を迎え、4月123人、5月428人（5月27日には県下の1日最多患者数の38人を記録した）、6月356人、7月263人と高止まりの状態である。図5に日ごとに公表された感染者数と感染経路不明者数を示す。感染経路不明者が依然として多い。高知県ではアルファ株が大多数を占めていたが、8月上旬には、さらに強い感染力をもつデルタ株が1/3の頻度で検出されるようになってきている。8月4日時点で感染者は2,128人、死亡は29人に昇った。

12月2日に、県の対応ステージを「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に、12月9日には「特別警戒（赤）」引き上げた。対策が奏効して患者数が減少したため、1月22日に「警戒（オレンジ）」に、3月4日には「注意（黄）」に引き下げたが、4月5日に「警戒（オレンジ）」に引き上げGWを迎えた。5月24日にはふたたび「特別警戒（赤）」とした。また、高知市/四万十市では、5月26日から6月20日/6月8日まで、飲食店（宅配、テイクアウトは除く）、旅館・ホテル（飲食を提供する宴会場に限り）、カラオケボックス、ライブハウスに対して、20:00までの時短営業を要請した。7月21日に警戒（オレンジ）に引き下げたが、会食は「2時間以内、4人以下」の制限は8月末まで続けられる予定である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	26週	27週	28週	29週	30週	計
1	RS ウイルス感染症		8.32	11.39	12.32	11.54	11.54	55.11
2	感染性胃腸炎		3.61	3.32	1.96	1.50	1.86	12.25
3	ヘルパンギーナ		2.39	2.32	2.36	1.50	0.71	9.28
4	手足口病		0.68	0.79	1.36	0.96	2.18	5.97
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.36	0.29	0.43	0.39	0.50	1.97
6	突発性発疹		0.36	0.32	0.46	0.43	0.25	1.82

図1,2021年8月4日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

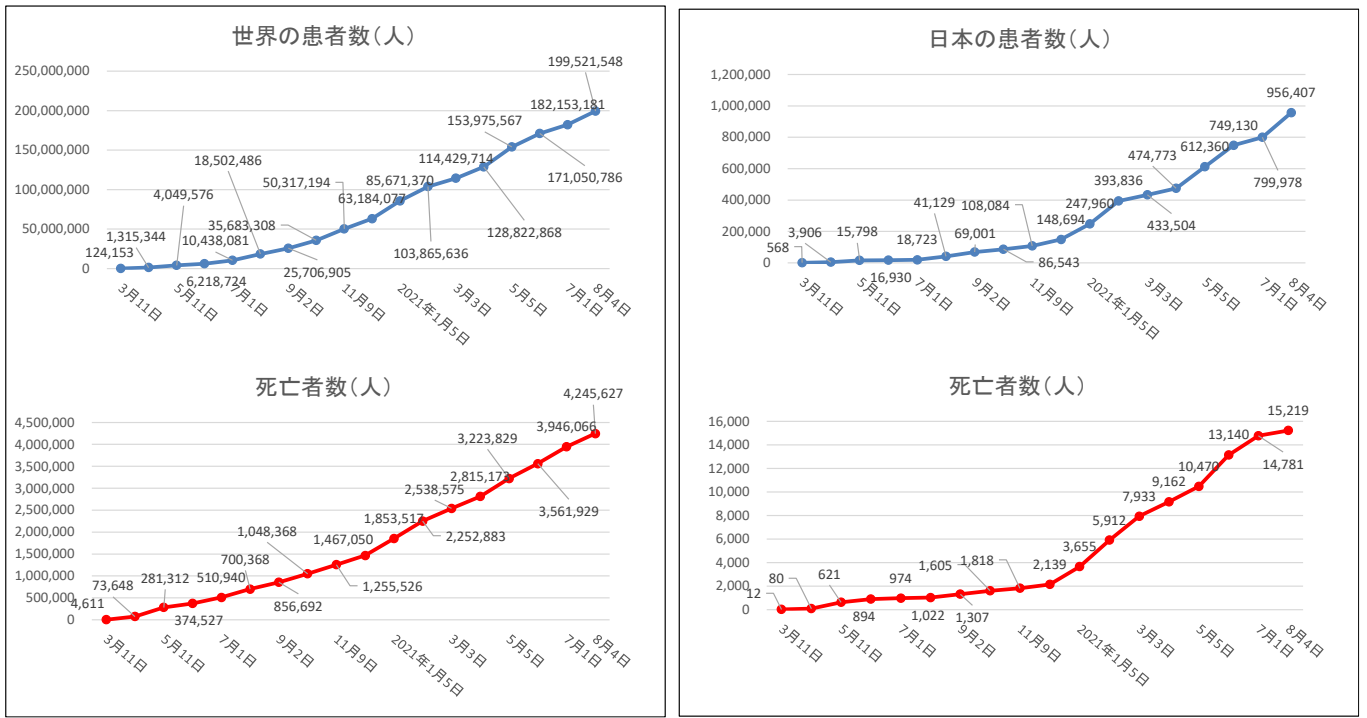


図2.高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

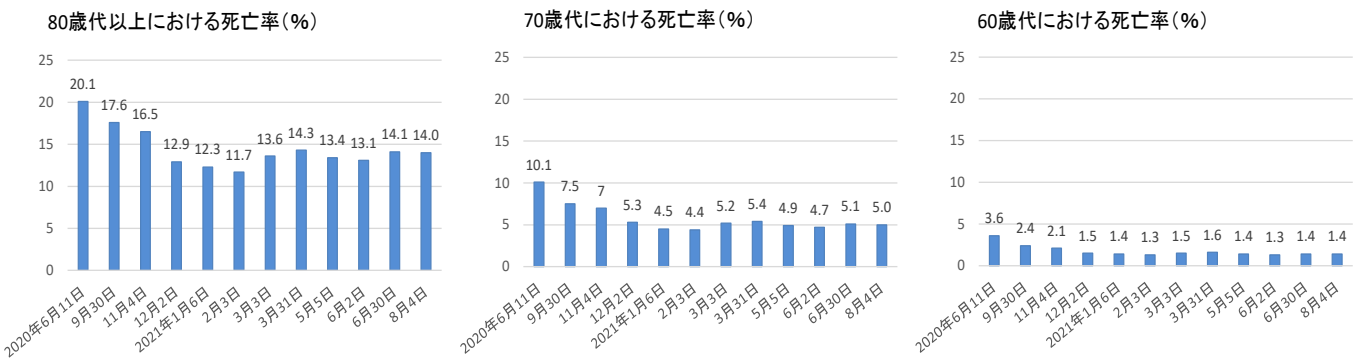


図3A, 経時的な年齢層別感染者数

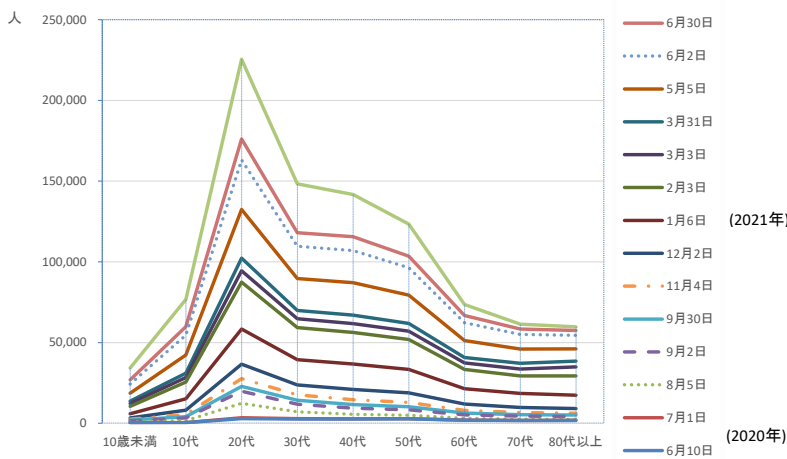


図3B, 年代階層別の感染者割合 (2021/8/4時点)

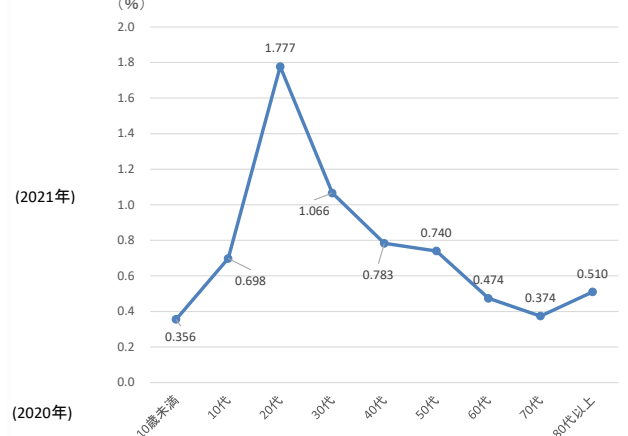
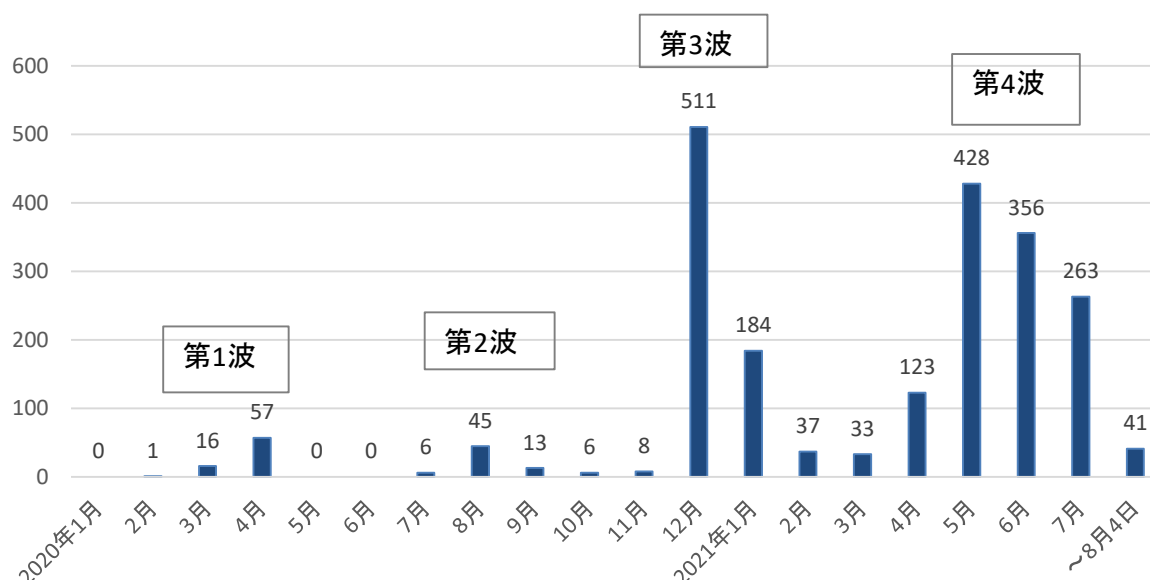
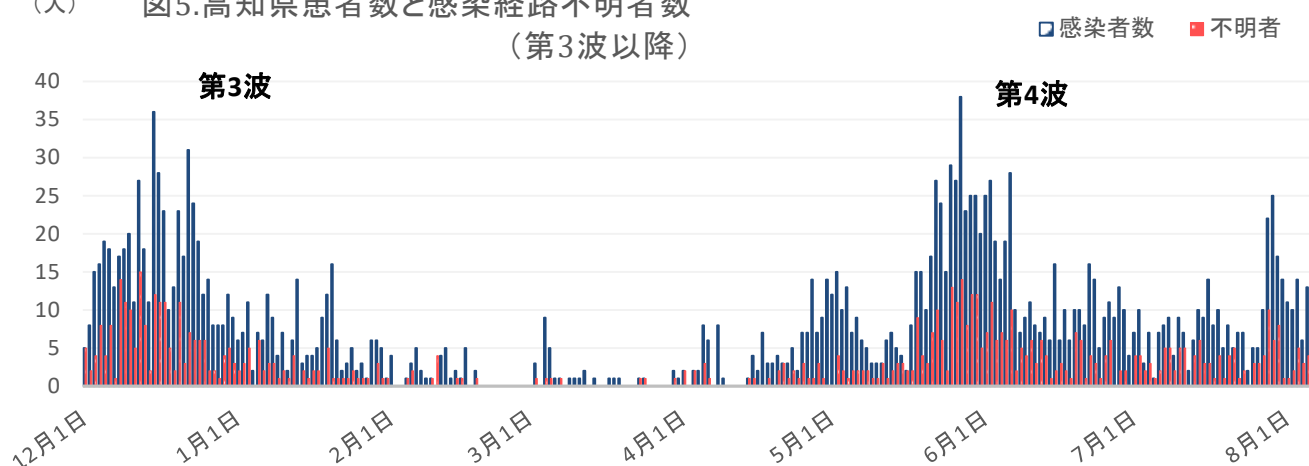


図4.高知県のCOVID-19月別患者数  
～2021年8月4日



(人) 図5.高知県患者数と感染経路不明者数  
(第3波以降)



## 2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

引き続き、衛環研のCOVID-19流行による業務増大のため、感染症発生動向調査としての他ウイルス検出は実施していない。

## 3. 主な疾患の発生状況

### 1) インフルエンザ

報告数 0名(6月 2名)。須崎で第24週と25週に各1名いずれも40歳台が報告された。第26週以降に報告はなく、流行に至ってはいない。2020-21年シーズンは、9月、2月、3月に各1名のみが報告されていた。統計がある1998年以降の23年間で「流行」がないのは初めてである。COVID-19に対する感染対策とワクチン接種の励行によってインフルエンザの流行が阻止された。

### 2) 咽頭結膜熱

報告数 27名(6月 44名)。平年並の報告数である。安芸以外の県下全域から報告された。

### 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 55名(6月 55名)。本年に入って、過去10年で同時期として最も少ない数で推移している。県下全域から報告があり、特に幡多、須崎、高知市に多かった。

#### 4) 感染性胃腸炎

報告数 343名(6月 682名)。2020年3月以降は、同じ時期として過去10年で最少の報告数で推移していたが、4月は増加し平年並の数に、5月はさらに増加、6月は減少したとはいえ、過去10年で同時期としては最も多い報告数となった。感染力の強いノロウイルスの流行が主因と思われる。7月はさらに減少し、平年並になった。県下全域から報告されたが、県下全域から報告があり、特に幡多は多く、警報値の20を超えていた。

#### 5) 水痘

報告数 13名(6月 5名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。幡多以外の全域から報告され、特に須崎が多かった。

#### 6) 手足口病

報告数 167名(6月 19名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いてきたが、7月になって増加した。大きな流行ではない。須崎以外の全域から報告され、特に多かったのは、中央東、高知市、安芸である。流行ウイルスはまだ同定されていない。

#### 7) 伝染性紅斑

報告数 3名(6月 2名)。2020年9月以降は1けたの報告数である。高知市から2名、須崎から1名報告された。

#### 8) 突発性発疹

報告数 51名(6月 50名)。想定内の変動である。

#### 9) ヘルパンギーナ

報告数 260名(6月 206名)。本来初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行し10月がピークで、その後だらだらと続いていた。2021年は5月になって増加し、同時期としては過去10年で最多で、早い流行を迎えた。6月、7月と増加し、平年並みの流行になっている。県下全域から報告があり、特に多いのは高知市、中央西、中央東の順である。流行ウイルスはまだ特定されていない。

#### 10) 流行性耳下腺炎

報告数 3名(6月 1名)。少ない数で推移している。高知市から3名が報告された。

#### 11) RSウイルス感染症

報告数 1,543名(6月 395名)。2020年は3月以降減少し、流行期であるにも関わらず11月から3月まで異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名と著増し、2カ月連続で過去10年に同月としては最多となり、季節外れの爆発的流行である。7月は1,543名と過去10年で最多となり、年間報告数(過去10年間の平均値1,114名)を1か月の報告数が上回った。

まる1年間は県下でRSウイルスの流行がなかったことで、ウイルス感受性児が蓄積されていたことが、大きな流行をもたらした要因と思われる。

#### 12) 流行性角結膜炎

報告数 2名(6月 3名)。高知市で2名報告された。

#### 13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(6月 0名)。中央東で40歳代の患者が1名報告された。本年の累積3名目となった。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種が始まって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

#### 14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(6月 0名)。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も1名と少数で推移している。

#### 15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(6月 2名)。昨年11月以降は、同時期として過去10年間で最も少ない報告数が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名 (6月 20名)。平年並みである。高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (6月 0名)。2020年1月以降はゼロが続いている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (令和3年7月)

類型	病名	報告月							総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
2	結核	1	5	6	7	3	4	5	31
4	重症熱性血小板減少症候群		2			1	1		4
	日本紅斑熱			1	2	2	3	1	9
	レジオネラ症						3	1	4
5	ウイルス性肝炎	1							1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1		1	1	4
	急性脳炎							1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		1			1	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		2	1	1	2		7
	水痘 (入院例に限る)							1	1
	梅毒	8	4	4	6	8	13	6	49
	破傷風	1							1
百日咳						1		1	
総計		14	12	13	18	15	28	17	117

# 高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年

7月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								2	
小児科	咽頭結膜熱		5	10	3	3	6	27	44	44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	2	21	1	5	23	55	55	69
	感染性胃腸炎	17	59	100	24	18	125	343	682	201
	水痘	1	1	5	1	5		13	5	29
	手足口病	16	66	73	7		5	167	19	101
	伝染性紅斑			2		1		3	2	12
	突発性発疹	2	11	23	7	2	6	51	50	57
	ヘルパンギーナ	9	75	125	37	6	8	260	206	15
	流行性耳下腺炎			3				3	1	7
	RSウイルス感染症	7	242	905	137	49	203	1,543	395	
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	3	2
STD	性器クラミジア感染症			3				3	9	
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		1					1	1	3
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎		1					1		
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎								2	9
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限定する)								1	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		3	18				21	20	23
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症			1				1		
計		55	466	1,291	217	89	376	2,494	1,497	573
前月		56	212	709	169	69	282			
前年同月		22	111	280	48	30	82			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

# 高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年

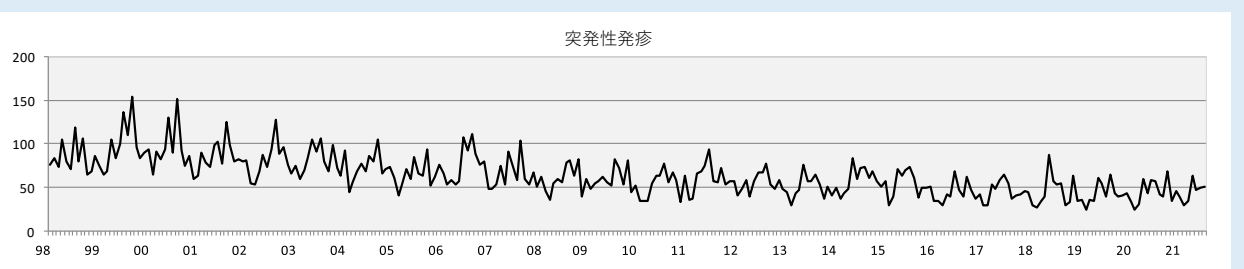
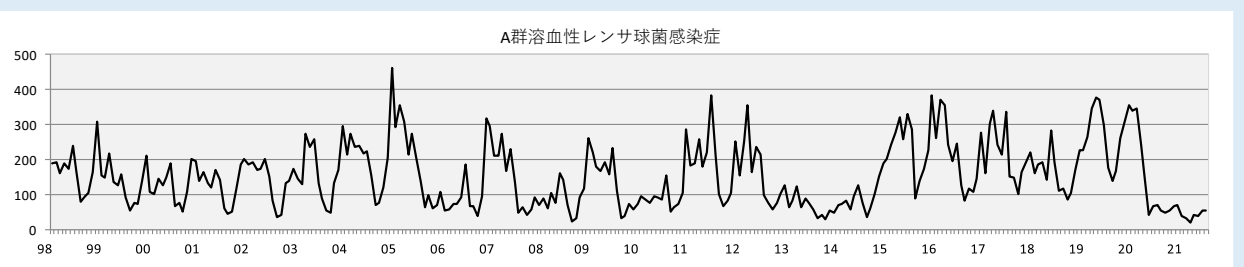
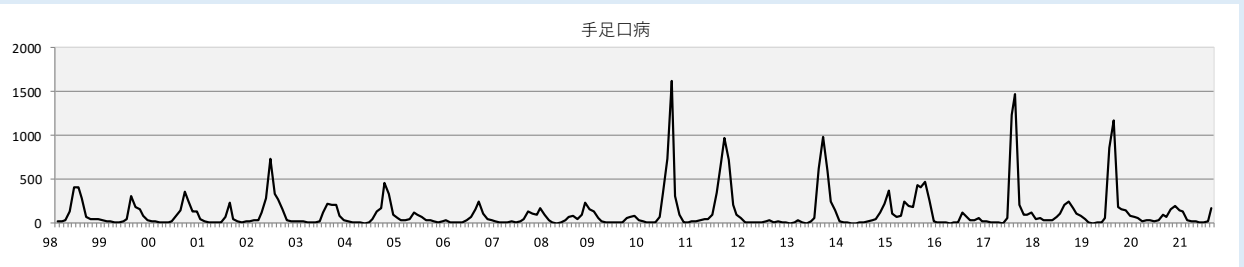
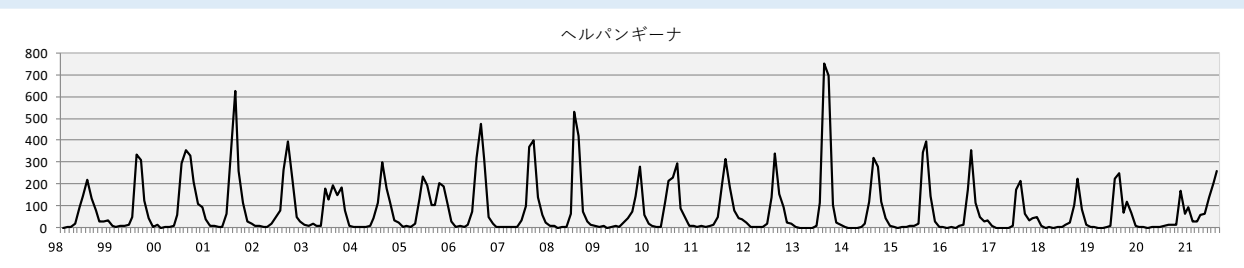
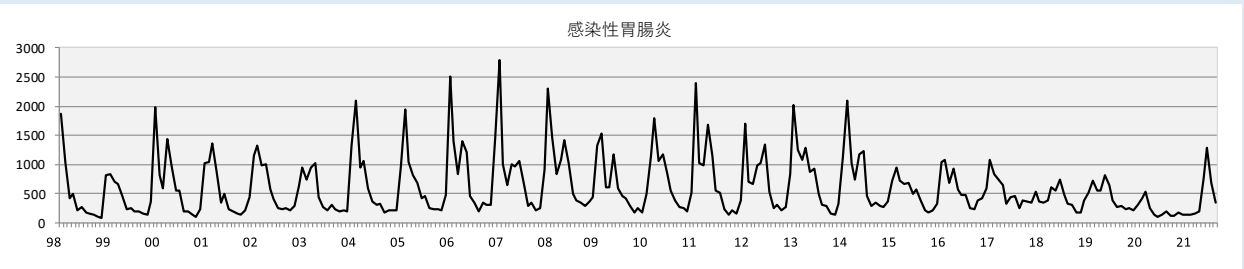
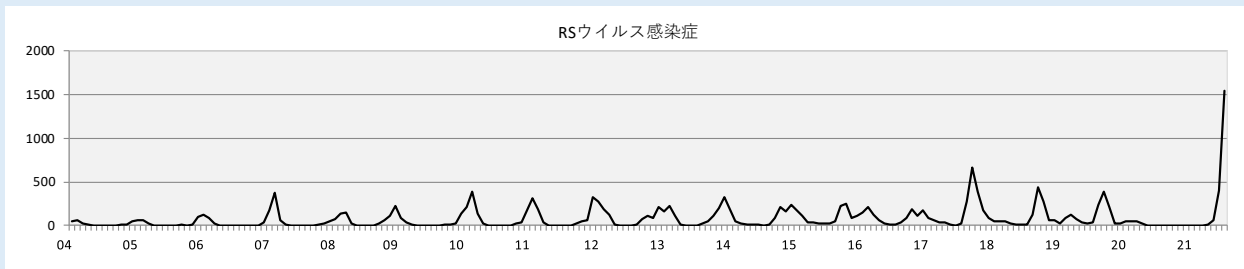
7月

定点当たり的人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								0.04	
小児科	咽頭結膜熱		0.71	1.10	1.00	1.50	1.20	0.96	1.57	1.57
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.28	2.34	0.33	2.50	4.60	1.97	1.96	2.46
	感染性胃腸炎	8.50	8.43	11.11	8.01	9.00	25.00	12.25	24.36	7.19
	水痘	0.50	0.14	0.55	0.33	2.50		0.47	0.19	1.03
	手足口病	8.00	9.44	8.11	2.33		1.00	5.97	0.68	3.61
	伝染性紅斑			0.22		0.50		0.11	0.08	0.43
	突発性発疹	1.00	1.58	2.56	2.33	1.00	1.20	1.82	1.78	2.03
	ヘルパンギーナ	4.50	10.72	13.89	12.34	3.00	1.60	9.28	7.36	0.53
	流行性耳下腺炎			0.33				0.12	0.04	0.25
	RSウイルス感染症	3.50	34.56	100.55	45.66	24.50	40.60	55.11	14.11	
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2.00				0.66	1.00	0.66
STD	性器クラミジア感染症			1.50				0.50	1.50	
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		0.50					0.17	0.17	0.50
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎		1.00					0.13		
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎								0.26	1.15
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限定する)								0.13	0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		3.00	3.60				2.63	2.50	2.88
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症			0.20				0.13		
小児科定点分計		27.50	65.86	140.76	72.33	44.50	75.20	88.06	52.17	19.10
前月		27.50	29.71	75.66	56.33	34.00	55.80			
前年同月		10.50	15.28	27.62	15.98	15.00	16.00			



注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																				総計				
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	31	1841	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	31	1841	
3	コレラ	1					1						1												3	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2					27	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		207	
	腸チフス			1					1									1					1		4	
	バラチフス	2																							2	
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	243	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1				2		34	
	E型肝炎												1		1								2	1	5	
	オウム病			1		1														1					3	
	Q熱	1	1	2				1																	5	
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	93	
	デング熱													1			3	2	1				2		9	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	9	204	
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1											6	
	マラリア								2						1								1		4	
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	4	
	レプトスピラ症												1		4	2	1					1			9	
		計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	17	510
	5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		47	
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	1	61	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																		7	19	21	22	21	20	10	4	
急性弛緩性麻痺																						1	2		3	
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1	22	
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		35	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	4	32	
後天性免疫不全症候群		2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		81	
ジアルジア症			1	2	1							1			1	1					1				8	
侵襲性インフルエンザ菌感染症																		1	5	3	4	7	3	1	24	
侵襲性肺炎球菌感染症																	1	4	12	16	18	14	22	11	7	
水痘（入院例に限る）																			2	1	1	3		3	1	
髄膜炎菌性髄膜炎												1													1	
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	49	280	
播種性クリプトコックス症																				1	3	5			9	
破傷風				3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1							1		1	1			5	
百日咳																						173	172	35		
風しん											1	1			4	9	1				3			19		
麻疹												5												5		
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	69	1289	
新型	新型インフルエンザ																								34	
	計																								34	
動物	鳥インフルエンザ																								1	
	計																								1	
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	117	3918	